

# 農業クラブの3大目標のひとつである「社会性」を身に付け、更に人間性を高めていくためにはどのようにしたらよいか。



クラブ員代表者会議 北海道ブロック 北海道東藻琴高等学校  
生産科学科 3年 井上 優士  
生産科学科 3年 大山 夏美  
生産科学科 2年 吉岡 美礼

## 1 北海道・オホーツクの農業

私たちが住む北海道は四方を太平洋、日本海、オホーツク海に囲まれ、雄大かつ変化に富む山岳、広大な湿原、美しい景観の天然湖沼などにより形成されています。

北海道は、日本の耕地面積の4分の1にあたる約115万haを有する一大農業地帯です。その広大な土地を生かした大規模な生産活動が行われており、小麦、スイートコーン、砂糖の原料となるてん菜、じゃがいも、玉ねぎ、生乳などは国内シェア1位を誇っています。

そのほかにも、地域によって気候風土が異なるという特性から、地域の特色を生かした多種多様な農畜産物が生産されているのが特徴であり、カロリーベースの食料自給率は200%を超え、まさに日本の食糧基地となっています。

そんな広大な北海道の中で、私たちの高校が所在するオホーツク地域は、北海道の北東部に位置し、オホーツク海と280kmの海岸線で接しており、南北に約80km、東西に約200kmの広がりがあります。耕地面積は、約17万ha、乳用牛が11万頭と、大規模な畑作・酪農地域です。

## 2 本校の概要

私たちの高校は、道東の名水「銀嶺水」が湧く緑豊かな藻琴山の裾野に広がる大空町にある昭和28年に開校した昼間定時制の農業高校です。本校は、生産科学科で校訓「耕心」のもと、草花や野菜の栽培などの「農」の学習や食品製造などの「食」の学習をとおして、今まで1400名を超えるクラブ員が、地域の農業人として活躍しています。

なかでも、昭和54年には、地域の課題であった余剰牛乳の有効利用を図るため、先生方とクラブ員が中心となり、プロジェクトチームを結成。思考錯誤の末、北海道の高校で初めて「ナチュラルチーズひがしもことホワイト」というカマンベールの開発に成功。今では地域を代表する特産品になっており、私たちは、現在全クラブ員が57名と小規模ながら、「想いをカタチに」を合言葉に、先輩方のように「将



来農業人として活躍できるクラブを運営したい」と会長が中心となり、執行部が一致団結して農業クラブ活動を行っています。

### 3 「社会性」を身に付け、更に人間性を高めるための農業クラブ活動

今回の分科会テーマである、「社会性」を身に付け、更に人間性を高めるためには、クラブ員が「高い意識」「たゆまぬ努力」「主体性」の3要素を兼ね備えることが必要だと私たちは考え、農業クラブでそれらを身に付けられるよう、今年度のテーマを「私たちの熱い想いをカタチに」～農業クラブを変える3つの改革～とし、クラブ員の科学性、社会性、指導性を向上させ、想いをカタチにするための3つの改革を行いました。



- (1) 農業って面白い！全クラブ員が農業クラブ活動に興味を持てる活動～意識の改革～
  - (2) やればできる！全クラブ員が目標に向かって努力できる活動～学習システムの改革～
  - (3) 主役はわたし！全クラブ員が主体的に課題を解決できる活動～取組の改革～
- それでは、東藻琴高校農業クラブの3つの改革について実践内容を報告します。

#### (1) 農業って面白い！全クラブ員が農業クラブ活動に興味を持てる活動～意識の改革～

まず、人間性を高めるためには、クラブ員が農業クラブ活動に対する意識を変えたいと考えました。そこで、今まで発行していた広報誌「緑友会だより」に加えて、フェイスブックにも本校農業クラブのアカウントを作成。定期的に最新の事業に関する情報を記載したことで、クラブ員が執行部の記事に対し、意見や要望を書き込むことができるようになったことにより、従来までの一方向のみの情報伝達ではなく、双方向の情報伝達を可能にすることができました。クラブ員からの意見をとおして、今年度から新たに障がい者施設への鉢花配布の事業を行いました。

また、「農業ってただ作業をする」というクラブ員のイメージを変えたいという想いで、工夫次第で様々な可能性があることを農業実習以外でも肌で感じてもらうため、「農業の驚きと発見ツアー」を企画し、募集したところ49名と80%以上のクラブ員が参加を希望してくれました。

ツアーは近年農業で話題になっている新たな取組に着目し、農業女子、柳谷さんが実践している自家野菜を使ったスイーツの販売、介護施設での園芸福祉の実践、地域企業と連携した新商品共同開発の3つのプランを用意。クラブ員は、自分の関心のあるツアーに参加し、体験することで、驚きや発見があり「こんなことやってみたい」と、クラブ員に夢や希望を持たせることができました。

これらの活動をとおして、自ら情報を収集し、興味を持って活動を行ったことで、クラブ員の意識を改革することができました。

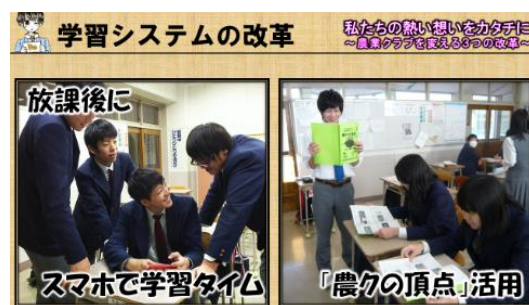
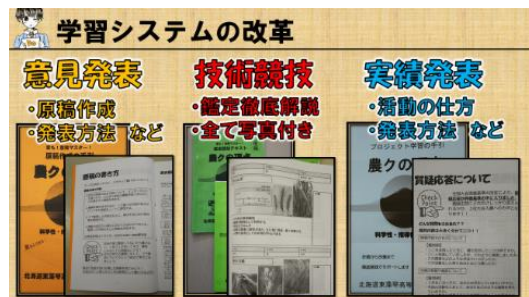


## (2) やればできる！全クラブ員が目標に向かって努力できる活動～学習システムの改革～

農業クラブ三大事業は、農業の基礎を習得・発展させることで、人間性向上へのプロセスとなります。私たちは、取組方法が分からないクラブ員のために、全員が努力できるようにしたいという思いから、事業ごとに「農クの頂点（意発・技競・実発編）」を作成しました。

意見発表では、原稿作成、発表、質疑応答などの項目を詳しく解説し、技術競技では、鑑定競技の全ての項目に写真と解説を付けました。実績発表では、プロジェクト学習で重要な計画の立て方から活動の仕方までを具体的に説明しました。その結果、クラブ員が 24 時間「農クの頂点」を活用できるようになりました。

三大事業の中でも、校内大会の点数が低い鑑定競技に着目し、全員が学習に取り組むことができるよう、クラブ員のスマートフォンのSDカードに練習問題のデータを挿入。放課後に「スマホで学習タイム」を実施し、全クラブ員が「農クの頂点」を活用しながら多くの問題を解く機会をつくり学習の時間を増やしました。また、学習の定着を図るため、校内技術競技大会を年3回実施し、その都度分からない問題を復習しました。このように、学習システムを改革した結果、今年度の校内大会の平均点を、昨年度の 59 点から 74 点と、15 点も上昇させることができました。また、全国大会では2名のクラブ員が14年ぶりに優秀賞を受賞することができました。



## (3) 主役はわたし！全クラブ員が主体的に課題を解決できる活動～取組の改革～

地域などの外部との交流において、最も重要なのは、クラブ員が主体的に関わるということです。本校では、地場産業の活性化を目的に地域の企業ともに行っている東高交流マルシェが、年々形骸化しており、当初の目的を見失いつつありました。そこで、今まで物販やレジ打ちしかしてこなかったことを反省し、「ただ売る」から「いかに売るか」を考え、執行部が役員となり模擬会社を設立し、運営しました。

企画営業部は事業主さんとの新企画の打合せ、販売部は各企業の自慢の1品を詰め合わせた「ギフトセット」の販売、宣伝部は各企業のこだわりを取材し、リーフレットやオリジナルレシピを配布するなど、課題解決に向け、組織として主体的に活動することができました。

また、本校はヤフー株式会社とのデジタル人





材育成プログラムにおいて、昨年度日本の高校で初めてネットショップでの販売を行いました。私たちの町は、人口約 7,500 人の過疎地域です。そんな中、店舗を必要としないネットでの販売は都市部と同等の条件で勝負できる非常に有効な手段です。

しかし、最初の販売では、閲覧数は 8,343 人と注目されたものの、売上は 15 日間で約 7 万円と、サイトの閲覧が購入に結びつくことは簡単ではないことを学びました。

そこで、本校の製品を購入してくれたお客さんが私たちの製品の何に魅力を感じてくれたのかを知るためにヤフー以外にも、カメラマンの森下さんや、ウェブデザインを行う株式会社ラ・キタの佐藤さんなどの専門家をお招きし、ご意見をいただきました。すると、「高校生の君たちが作っているということが大きな付加価値だ」とお話ししていただき、私たちは「強みを伸ばす販売を行おう」と新たに製品の製造工程を掲載するなど、「私たち」という付加価値をさらにつけられるよう、販売方法を再構築しました。

その結果、今年度約 15 万円の売上となり、学校から地域、地域から全国へ向けた主体的な活動を行い、クラブ員の取組を改革したことで、多くの人と関わる機会ができ、人間性の向上につながりました。

#### 4 まとめ

これらの活動の成果をまとめると、

- 1 クラブ員の意識を改革し、農業クラブ活動に興味を持たせることができた。
- 2 三大事業の学習システムを改革し、努力できる環境をつくることができた。
- 3 取組の改革を行い、主体的に事業に取り組むクラブ員が増加した。

の 3 点となります。

また、活動の後には、私たちが具体的に定めた目的の達成度を図るためのループリック評価をクラブ員に行ったところ、評価平均 4.16 と、熱心な活動ができたことが分かりました。また、農業クラブ活動で体験した内容をつづり、毎日新聞社主催の毎日農業記録賞に応募した私たちの原稿が、北海道で 1 位となる優良賞を受賞しました。

さらに、私たちの活動が評判を呼び、3 年前は年間 16 件だった新聞の掲載数は今年度 60 件と 3 倍も増加し、地域からも大きく注目され、クラブ員の熱い思いが地域にも伝わったことが分かりました。

農業クラブの 3 大目標のひとつである「社会性」を身に付け、更に人間性を高めていくための方策には、様々な方法がありますが、一番大切なのはクラブ員の思いカタチにする私たち執行部の思いの強さです。

今後は、今まで身に付けた力を生かし、日本から世界へと視野を広げたグローバルな農業クラブ活動を私たちの手で行いたいと考えています。

これからも、クラブ員の熱い思いをカタチにして、本校農業クラブは、挑戦し続けます。

